

平成28年度 学校版環境ISOの取組

山鹿市立三岳小学校

はじめに

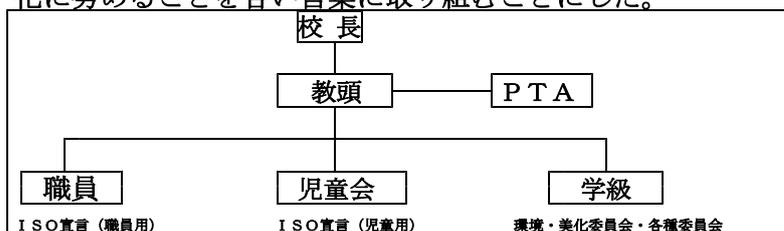
本校区は、山鹿市北部に位置し、彦岳、震岳、西岳の三つの山に囲まれた農山村である。その山裾を岩野川が貫流している。

本校は、全校児童82名、職員数19名の学校である。本校は『自立に向けた基礎づくり～心身ともにたくましく、思いやりがあり、学ぶ意欲に溢れた児童の育成～』を教育目標としており、「チーム三岳」を合い言葉に児童・職員一丸となり教育目標に向かって取り組んでいる。



1 三岳小版環境ISOの基本姿勢と組織図

本校は、一人一人が環境に対して主体的に取り組むことを三岳小版環境ISOの基本姿勢としている。今年度は更に電気や水の無駄遣いを減らすこと、校内・校庭の環境美化に努めることを合い言葉に取り組むことにした。



児童会活動では、環境・美化委員会が中心となり、全校で活動を行っている。職員も一丸となり、児童と共に取り組むように組織した。

2 平成28年度 三岳小学校版環境ISO宣言項目

三岳小環境ISO宣言(児童用)

- 1 照明のスイッチをこまめに切ります。
- 2 手洗い、水のみ、掃除の時の水を節約します。
- 3 校舎、校庭の美化作業につとめます。

<目標>
電気・水道の使用量を昨年度よりも**5%以上**減らす。
児童の自主的な取組による美化作業

5%節電

各教室に掲示

三岳小環境ISO宣言(職員用)

- 1 消耗品、備品の購入の適正化に努めます。
- 2 冷暖房機器の使用を節約します。
- 3 分別ゴミ収集を行います。
- 4 紙の消費を抑え、再生紙を使用します。
- 5 学校の環境への取組を家庭へ伝えます。
- 6 月に1回エコチェックを行います。

<目標>
備品 紙 燃料 水道の料金を昨年度よりも5%以上減らす。

5%節電

三岳小環境ISO(職員用)の掲示

3 環境教育計画



←環境教育全体計画

重点目標

「人と環境のかかわりについて気付き、自分たちにできることを進んで考え、実践しようとする態度を育てる。」



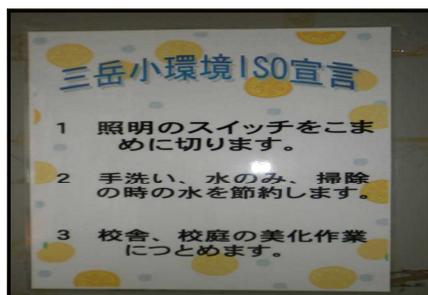
←環境教育年間指導計画

各学年の年間指導計画を見直し作成した。月毎に各教科等の単元名を洗い出した行動計画になっており、環境教育を教育課程のあらゆる場面に位置付けた推進体制とした。

4 取組の実際

(1) 児童による三岳小環境ISO宣言

本校児童会の環境・美化委員会が年度当初に話し合い、宣言項目に基づいた活動計画を提案した。宣言項目を全児童に知らせ、その後宣言項目は、いつでもどこでも目に触れるように各教室や職員室等に掲示し意識化を図った。



(2) 各宣言項目の取組 (児童用)

ア 節電の呼びかけ (照明の節電)



部分点灯の啓発



スイッチ下に掲示



目標数値を掲示

<節電の点検と記録>



<月別電気料金 (昨年・今年)>

10月現在	
平成27年度	1,008,184円
平成28年度	937,503円
増減	-70,681円

昨年度(10月現在)と、今年度(10月現在)を比較すると、1学期は、かなりの節電効果が表れている。2学期以降も昨年度を下回る数値でほぼ進んでおり、節電の効果が表れている。

イ 節水の取組

環境美化委員会を中心に、蛇口のそばに作成した節水のとびかけカードを貼り付け児童全体への節水を呼びかけた。



<月別水道料金 (昨年・今年)>

1月現在	
平成27年度	445,090円
平成28年度	354,870円
増減	-90,220円

昨年度(1月現在)と、今年度(1月現在)を比較すると、昨年度はプールの止水弁の故障からの漏水が原因で水道料金が高くなっているため比較しにくい部分もあるが、ほかの月は比較的昨年度より低くなっているように思われ、節水の効果が表れている。

ウ 美化作業の取組

(ア) 児童が主体的に行う朝のボランティア活動

登校後、自主的に外に出て草取りや落ち葉集め等の活動を行っている。



↑ 落ち葉集め
春や秋は落ち葉集めを、登校した児童から自主的に行っている。上の写真は高学年が落ち葉をかき集め、低学年が拾っている様子。



↑ 草取り
雑草が生い茂る時期は、朝から草取り鎌を片手に、全校上げて除草作業に取り組んでいる。



↑ 花の苗植え
玄関前に飾るプランターに、児童の手で花の苗を植えた。苗を植える手つきも徐々に慣れ、楽しみながら植えている。



↑ 種から育てる
花を種から育てることに取り組んでいる。なかなか種から育てることは難しいが、今後も取り組んでいきたい。

季節の状況に応じたボランティア活動を児童も職員も行っている。

(イ) グリーンカーテンの育成
ゴーヤやヘチマの苗を植え、児童が水をかけ、雑草を取り、見事に育て上げた。その結果涼しい環境で学習をすることができた。



グリーンカーテン

(ウ) 児童による野菜の栽培
有機肥料を使った各学級花壇では、きゅうり、トマト、なす、シトウなどたくさんの野菜が実った。児童が水やりや雑草取りを積極的に行い、大切に育てる姿が見られた。

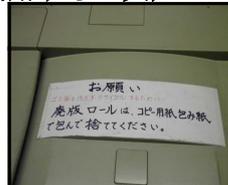


(3) 各宣言項目の取組 (職員用)

ア 消耗品・備品の消費を抑える取組 (再利用する工夫)



← 分かりやすい表示 (印刷室内部)
裏紙置き場をはっきりと示し、再利用しやすくしている。



← ゴミ袋の再利用
輪転機では、廃版ロールを、コピー用紙包み紙で包むことで、ゴミ袋を汚すことなく再利用することができる。

イ 冷暖房機器の電気使用量の節約

今年は昨年と比べ、電気使用量が多くなってしまった。職員が気持ちを改めて、職員室の冷暖房の使用を控えていく対策をとっていきたい。

ウ ゴミの量の削減と分別

(ア) 職員室の大型シュレッダーの導入によってゴミの体積を減らし、他のゴミと混ぜずに再利用してもらう取組を行った。

(イ) ゴミの分別 (毎月の点検)

毎月の学校安全点検に分別項目を設け、チェックしながら行っている。

エ 学校の環境美化への取組を紹介

(ア) 学習環境整備

○ 環境美化委員会の取組



朝のひこだけタイムで、学校の環境について考える発表をし、節電・節水、ボランティア活動の推進などについて発表し、全校児童の意識付けを図った。

○ 家庭や地域との連携



PTA による資源ゴミ収集活動を実施。各家庭に呼びかけ、資源ゴミのリサイクル活動を実施した。売上金は、学校の教育活動に役立てる。

○職員による校内の整理整頓



家庭科室、体育館倉庫などを徹底的に整理し、備品の活用がしやすくなった。



オ 年間計画に基づく、授業における環境学習の取組例
1年生 5年生

(ア)教材「ぼくのおさがお」
ねらい
植物を大事に育てる心を育てる。
<内容>
水かけをする大切さを学ぶ。

~~~~~

(イ)教材「カップのねがい」  
ねらい  
河川などの環境を守る心を育てる。  
<内容>  
沼を汚す人間とそこに住む人間に対していたづらをするかっぱがいた。しかしある人が沼のゴミを取り除いたところ、それ以来かっぱのいたづらなくなった。

教材「水俣から学ぶ」  
ねらい  
ゴミのリサイクルから環境について学ぶ。  
<感想>  
日頃何気なく捨てていたごみも、リサイクルすることで立派な資源になることがわかった。これからゴミの分別を進めていきたいと思った。



パックテストで水質調査

5 成果

- ・児童・教師の主体的な取組で、ボランティア活動を行うことができた。
- ・昨年度に続き、児童が主体的に美化活動に取り組めた。
- ・児童の手による学級園での野菜の栽培活動が、充実したものとなった。

児童の感想

「教室の明るさを気にするようになった。」 「必要な箇所だけのスイッチをつけるようになった。」  
「歯磨き手洗いでは、水を出しっぱなしにしないようになった。」 「コップに入れる水の量も少なくなった。」  
「水道の蛇口をしっかりと閉めるように気をつけるようになった。」

6 課題

- ・主体的な活動がより一層深まるように、環境美化に対する児童一人一人の意識の差を縮めていく。
- ・実態把握を更に行い、宣言項目や数値目標の妥当性を再検討する。
- ・水道使用においては、多面的にチェックを行い、更に節水対策を図る必要がある。
- ・電気代は、今後も冷暖房に限らず、照明も部分電気を心掛け、節電に取り組んでいくようにする。